

オールとちぎ通信

平成 23 年 2 月 8 日 災害ボランティア オールとちぎ発行 第 215 号 発行者:災害ボランティア オールとちぎ
〒320-0027 栃木県宇都宮市塙田 2-5-1 共生ビル 1F TEL028-622-0021 E-mail: all_tochigi@yahoo.co.jp

奄美大島豪雨報告 柴田貴史

10月26日から30日までの5日間の日程で豪雨に見舞われた、鹿児島県奄美市に災害派遣で行って来ました。前日まで、中越地震も追悼式典のため21日から新潟に行っていました。新潟では朝夕の気温は5度程度まで下がりますが、奄美大島は気温が30度にもなっていました。気温差25度には驚き、日本もなかなか広いなと感じました。さて、奄美空港に着いた私は、先入りしている方と奄美市住用町の奄美体験交流館（避難所とボラセン）に行きました。ボラセンに行くと社協の職員が数名あわただしく動いていました。ここでは小規模ですが、地域のニーズがたくさん集められ、地区長を中心に世帯支援が行



われていました。ここでは、地域のことは地域で助け合う、協力するといった「結」というシステムがあり、ボラセンが地区長にボランティアを派遣し、地区長が各世帯に振り分けるシステムで作業が行われます。今までの被災地でも地域住民の助け合いを感じてきていますが、ここではそれ以上ではないでしょうか。

そんな例を一つ、この町内ではありませんが、今回の豪雨被害約100世帯を土日の2日間で親戚、友人、役場や消防団など約250人で泥だし、家具移動、片付けを完了したそうです。中には、仕事を休んでまで作業をした人もたくさんいるそうです。また、地域柄「ハブ」がたくさんおり、今回の豪雨による崖崩れ等で山から里へたくさん

のハブが流されてきているらしく、瓦礫や川、草むらに潜んでいる可能性があって緊張しました。そんなハブを捕獲するハブ捕りボランティアもいました。

その2

25日ぐらいからは各団体によるさまざまな支援が行われ、復旧作業も本格化している中、豪雨水害の後、台風が近づきみんなで復旧作業をがんばっているのに文字通り水をさされました。このことにより、被災地では緊張状態が続きました。また台風接近に伴い、28日午後から31日までボラセン及び作業も一時中断となりました。そんななか、「がんばれ奄美」と横浜ベイスターズの秋季キャンプが予定通り行われました。島民は島をあげて歓迎ムード、30日、空港に到着したメンバーに歓迎会が行われたそうです。

現地でも聞いた話を一つ、それは報道関係者の無神経さです。避難者への配慮が無く、やりたい放題だったそうです。その後、報道規制がかけられたそうです。治療中にもかかわらず、カメラやマイクを向ける。避難所か



ら出かける住民を執拗に強引にインタビューが行われる場面も。精神的にも肉体的にもつらい状態の中、相手の気持ちを考えない報道は問題であり、必要以上の過剰な取材は自粛していただきたいと感じた。

また、冠水した施設を訪問する機会があった。関係者の方に当時の様子を伺うことができた。当時（20日正午頃）、利用者と職員を含め約120人が施設内に取り残されたそうです。この施設では、道路の冠水により孤立し、さらに近くの川が氾濫し、大量の土石流が施設内に流れ込んできたそうです。停電しているなか、みんなで励ましながら、マッサージなどをしたり、在庫の食事を分け合ったそうです。全員の救出が完了したのは日付が変わってからだそうです。1階の屋根にとどきそうなほどの土石流がその時の壮絶な様子を物語っていました。全員無事なのは奇跡のようだと言ったと新聞記事に載っていました。



施設再建にはいろいろと大変なことと思います。今後も何らかの支援をしていきたいと考えています。

その3

29日は台風が接近している為、ボラセンも作業も一時閉鎖です。ですので、関係者との調整と別な地区へ行って見ました。何件か関係先の施設を訪問しました。どの施設も被害は無く、ボランティア活動をする準備があると話してくれました。また、奄美のJCの方と今後の支援方法や各種制度の活用方法について話し合いました。JCではこの週末（10月30、31日）にJC大会が予定されていたが、中止となり、その分、ボランティア活動に人手がまわると話していました。現在、ボラセンと調整しているそうです。



午後は国道58号線を大和村方面へが、全面通行止めでした。迂回路の案内は無く。雨と風が強くなり途方に与えていると、狭い道にたくさんの車が入って行くのを目撃、後に続くとなんとなく目的地のほうへ。そんなこんなで目的地に到着しました。数日前に知り合った人から教えてもらった場所へ行ってみると「誰もいない」すでに片付けは済んでいる様子で、町内、家屋には人が見当たりませんでした。当然のこと、こんな台風が接近しているときに外にいる人はほとんど無いのは当たり前ですが・・・

また、前日から多く目撃してきましたが、窓にコンパネを打ち付ける住民や植物などを縛ったり、屋内に入れ

ている人など。台風の準備は話にしか聞いていなかったの、とても驚きました。そのせいもあり、街中はとても閑散して見えました。さらに道を進めると勾配のきつい山々、崖崩れで片側通行になっている道、波しぶきのかかる海岸線なんとも緊張感があり、これ以上被害が拡大しないように祈るばかりでした。

その4

奄美に着てから、なかなか被災された方と話す機会がなかったが、到着したその日の夜にある店へ。ここは、奄美出身の若者たちが集まるサーフショップ兼居酒屋。若者たちが当時の様子を詳しく語ってくれました。何人かは膝まで水に使ったこと、友人の車が水没したこと、友人の家の片づけを手伝ったことなど。そして、その仲間たちも奄美のために何かやりたいと言っていました。

その若者たちは、奄美でサーフショップや土産物屋、居酒屋などを経営している。観光客が来なくなるのは困る。風評被害などはもっと困る。「俺たちは、俺たちにできることで奄美を応援していく」と熱く語っていました。具体的には、募金やサンゴの清掃などの話が出ていました。



このように自分たちでできることをがんばっている人を応援していきたいです。宇都宮に戻ってきても何度か連絡があり、いろいろと支援策を検討中です。また、栃木県でもいろいろな関わりが出てきています。具体的には不確定要素が多いため記載できませんが、オルとちメンバーまで聞いてください。

以上、4部で奄美大島報告は終わります。が、「何か奄美を支援したい。いい情報を持っている」など興味がありましたらご連絡ください。

栃木から支援を！ 奄美大島水害ボランティア活動支援募金

11月3日、奄美大島水害ボランティア活動募金を終えました。晴天でしたが風が吹いていて、少し肌寒かった募金でした。しかし、子供たちがお小遣いの中から募金してくれる姿に、心が温まりました。今回参加してくれたのは、UFC（宇都宮未来クラブ）、シャブラニール、あしなが育英会、ユースワークカレッジ他の皆さん、合計21



名の方々に参加していただきました。募金金額は、54000円となりました。募金していただいた皆様、募金活動に参加してくれた皆さん、ありがとうございました。集まったお金は、奄美大島で活動している団体他に送る予定です。

「とちぎVネット災害救援ボランティア基金」へご寄付を

郵便振替 00360-4-38111 名義：とちぎボランティアネットワーク ※通信欄に「災害」と明記して